

## 建築を通じた国際コミュニティ支援事業に関する研究： コロンビアにおける地域図書館の建設とデザイン

北 尾 靖 雅\*

A Study on the International Cooperation Project on Communities by Architecture:  
Architectural design and Construction Project on the Local Library Projects in Columbia

Yasunori Kitao

The purpose of this paper is to discuss international cooperation project for communities in the historical townships through the building of community architecture In Columbia. The local library project in the country is the target of this paper. The Japanese Government and Colombian government have been working for the local library projects since 1999, and 116 local libraries projects were done by the projects. Then, we decided to carry out following researches; 1) The backgrounds of the International Cooperation project, 2) the design and construction process of the prototype library, 3) formal features and practice use of the libraries in three typical municipalities in terms of climate feature.

As a result, design process and concept of the architecture, needs and practical use of the libraries and significance of the projects in the historic environment were understood. And a social significance of the project for creating common space was realized.

### 1. はじめに

#### 1-1. 研究の背景と目的

国連は開発途上国に対する国際協力事業としてコミュニティ・デベロプメントの概念<sup>註1)</sup>を1950年代に提唱した。国際復興開発銀行の融資額は銀行の創設以来、社会セクターに対する割合が増加し、近年では農村開発、教育、保健、都市の貧困問題に対処してきている<sup>註2)</sup>。コミュニティ支援は国際協力事業の中心といえる。一方、日本政府文化庁は文化財の国際協力の推進に関する報告書<sup>註3)</sup>をまとめ、国会は「海外の文化遺産の保護に係る国際的な協力の推進に関する法律」(平成18年)を制定し、日本政府は保健、教育の分野を国際協力の重要課題とする<sup>註4)</sup>。文化財と教育は日本の国際協力の中核となる分野といえる。ここで、

UN-HABITAT が示す「居住の権利」は住居に対して文化的アイデンティティの表現や社会的施設との関係を重視している<sup>註5)</sup>ことを考慮すれば、開発途上国の地方部で建築に関するコミュニティ支援事業を実施する場合には事業対象地域の様々な環境条件に対応可能な建築設計方法を構築することが重要な課題となる。そこで、本論はコロンビア共和国で日本政府が国際協力事業として実施してきた、コミュニティ建築として地域図書館の建設を支援する事業を事例として、地域図書館の建設がどのように行われ、運用されているのかを把握することにより、開発途上国の地方部でコミュニティ支援事業の一環として建設支援を行う場合の建築設計方法の検討に必要な知見を得ることを目的とする。

\* 京都女子大学准教授

## 1-2. 研究対象と方法

コロンビアにおける地域図書館の建設支援事業に関して概要を把握するために、在コロンビア日本国大使館と在東京コロンビア大使館で、関連する資料を収集したところ、地域図書館の形態の特徴には以下の4タイプあることが把握できた。

A) 地域に伝承されてきた建設方法を用いた地域図書館(3章)、B) 標準となる設計図に基づき建設された地域図書館(以下、標準型地域図書館とよぶ)(4章, 5章)、C) 建築文化遺産を再生した地域図書館(6章)、D) バスを利用した移動図書館である。Aは第1号の地域図書館建設支援事業で、Bは普及型で、Cは特殊事例といえる。本論では、Bの標準型地域図書館について、地域図書館の普及・展開の実態と利用状況を、地域図書館の建設事業に関する文献、事業担当者と運用/利用者に対する聞き取り調査を行った(2011年11月)。なお本論で対象とした地方部の小都市の概要は図1と表1にまとめた。

## 2. 「国家図書館計画」による地域図書館の建設

### 2-1. コロンビア共和国について

コロンビアは南米大陸の北西部に位置し、人口は4551万人で、一人あたりのGDPは5890USD(2010年, IMF資料)である<sup>註5)</sup>。南はエクアドル、西にブラジル、西北にベネズエラ、北にパナマと国境を接している。国土は南北に3つの山脈(アンデス山脈)が平行してはしり、カリブ海地域、太平洋地域、アンデス地域、オリノコ川流域そしてアマゾン流域からなる。カリブ海地域には砂漠、山岳地帯、熱帯雨林、降雪地帯がある。太平洋地域は最も湿度の高い地域で、アンデス地域は国の中央部に位置し重要な都市群があり人口が集中している。東部に展開するオリノコ川流域は大平原で石油や鉱物資源がある。そして国土の約30%を占めるアマゾン流域は熱帯雨林である<sup>註6)</sup>。政治的にはコロンビアは法治主義を追及し、政治的指導者のカリスマ性に統治を頼らない点にラテン・アメリカ諸国ではみられない特質をもつ<sup>註7)</sup>。なお、全人口の4割が貧困層で、人口の70%が40歳以下である<sup>註8)</sup>。

表1. 調査対象の地域図書館のある小都市

都市名 標高(m) 平均気温	都市(自治体)の概要
ククスウバ Cucunubá 2590m 14℃	ウパテ盆地の一角の丘陵地帯に位置する小都市で7つの丘に囲われている。先住民が暮らしていた場所に1600年にキリスト教会が建設され都市となり先住民の生活とともに発展した。主要産業は鉱業(採炭)、農業(酪農、ジャガイモ、小麦の栽培)と工業や煉瓦生産も行われている(註15)。図書館の事業年度:2005年, 建設費:90713USD, 受益者総数:10254人
サンタ・ソフィア Santa Sofia 2387m 19℃	険しい東部山脈の西側に位置するスペイン人の設立した小都市。古くはGuatoqueと呼ばれた。1810年に大統領婦人の名前から現在の名称が与えられた。キリスト教の修道院が都市の設立に結びついた宗教的に重要な小都市。主要産業は、農業(クルパ、トマト、イチゴ、コーン、豆類等の栽培や酪農が盛ん)と環境指向の旅行者に人気がある(註16)。図書館の事業年度:2003年, 建設費:71425USD, 受益者総数:3704人
コエリョ Coello 39m 26℃	マグダレーナ川とコエリョ川に近い場所に1627年に設立された都市。1880年に村が廃止されたが1882年に村に戻る。トリマ県の中央部に位置しきれいな水に恵まれた場所にある。主要産業は農業(綿花、ピーナッツ、もちろし類、マンガーク酪農など)と鉱業(砂の産出)。石油とガスのパイプラインが通り自治体の財政を支えている(註17)。図書館の事業年度:2004年, 建設費:84588USD, 受益者総数:7692人

### 2-2. コロンビアの大都市部と地方部の状況

コロンビアの人口構成を大都市部と地方部の関係からみると、全人口に対する都市部の人口は1938年には29%だったが2005年には75%になった<sup>註9)</sup>。都市域は20世紀を通じて過去300年間の3倍以上に拡大した<sup>註10)</sup>。しかし、例えばボゴタでは1990年代後半に1年間に低所得者向けの住宅は40000軒が必要と見積もられていたにもかかわらず18000軒しか建設されなかった<sup>註11)</sup>ことから、大都市部での人口増大に対する対策が十分に実施できていない状況が分かる。一方、地方部では、国内避難民の存在が社会的課題となっている。1985年~2005年9月末にかけて発生した国内避難民は360万人で、首都ボゴタへの人口集中を促進している<sup>註12)</sup>。大都市部への人口集中は、単に都市生活に対する魅力だけが要因ではなく、長年にわたりコロンビアの地方部で紛争が続いたことも背景にある。こうした状況を背景に、地方部で教育事業を展開するための社会基盤整備事業は十分ではなかった。その結果、未就学児童や非識字者の人口比率が高まり社会問題化した<sup>註13)</sup>。

### 2-3. 地域図書館建設事業の展開

コロンビア政府は2002年から4年間の国家計画として、民主主義や社会に属するという意識の向上や社会的つながりなどを発展させるための文化的試みを促進するために「読書と図書館に関する国家計画[Plan Nacional de Letura y Bibliotecas]」を定めた。そこで日本政府は「草の根・人間の安

表 2. 事業費の推移(実績値)と受益地域面積の試算

年度	1999	2002	2003	2004	2005	2006*	2007*	2008	2009	2010	合計	平均値
事業数(件)	1	1	14	10	30	21	14	10	5	9	115	168151
受益者総数(人)	11,662	6,518	175,914	101,132	465,249	359,999	244,877	115,290	32,151	168,720	1,681,512	
年間事業費(USD)	41,778	78,863	1,022,105	832,094	2,750,135	194,755	1,113,756	875,278	483,900	892,595	10,038,259	103.4
為替レート(1USD)	106	118.49	108.57	105.3	117.31	117.29	100.83	97.83	80.56	81.82		
年間事業費(千円)	4,428	9,344	110,970	87,619	322,618	228,452	112,300	85,628	38,983	73,032	1,073,374	8,458
平均事業費(千円)	4,428	9,344	7,926	8,762	10,754	10,879	8,021	8,563	7,797	8,115		
受益地域面積(km <sup>2</sup> )	198.84	111.13	2999.39	1,724.33	7,932.63	6,138.09	4,175.23	1,965.73	548.18	2,876.73	28,670.28	216
1事業の受益地域面積(km <sup>2</sup> )	198.84	111.13	214.24	172.43	264.42	279.00	298.23	196.57	109.64	319.64		216
受益圏仮定半径(km)	7.96	5.95	8.26	7.41	9.18	9.43	9.75	7.91	5.91	10.09		8.18

注表2-1) 2006年度に役所庁舎を文化遺産として修復し図書館とした事業が含まれている  
 注表2-2) 2007年度は図書館バス事業があるが、受益者数は90,000人で、費用は150916USDである。この値は本表には含まれていない。  
 注表2-3) 円換算は日本銀行資料(データコード:STXERM07USDollar/Yen Spot Rate at 17:00 in JST, Average in the Month, Tokyo Market, 1999-2010年度)を使用した。  
 注表2-4) 本表は在ボゴタ日本国大使館が作成した'Asistencia Japonesa Para Proyectos Comunitarios Apc en Colombia'を用いている

表 3. 図書館の建設された地域の状況(出典:在ボゴタ日本使館資料、2007年)

県名 Departamento	県人口 (人)	県面積 (km <sup>2</sup> )	識字率(%)		住民 移動*	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
			県全体	農村部		
アンティオキア	5671,689	63,612	88.1	80	4.3	89.16
クンディナマルカ	2228,478	22,623	90.7	86.9	2.9	98.5
サタンデル	1916,336	30,537	91.1	83.1	2.4	62.75
トリマ	1335,177	23,562	87.4	80.2	4	56.67
カウカ	1244,886	29,308	85	80.4	7.6	42.48
ノルテサワンデル	1228,028	21,658	87.9	75.4	4.8	38.42
ボヤカ	1211,186	23,189	87	82.6	2.1	52.23
ウイラ	1006,797	19,890	87.4	82.4	6.3	50.62
カルダス	908,841	7,888	90.7	84.3	3	115.2
セサル	879,914	22,905	82.7	69	5.6	38.42
スクレ	765,285	10,917	80.5	71.5	8.3	70.1
ラグアヒラ	623,230	20,848	63	38.4	7.4	38.42
チョコ	441,395	46,530	71.9	58.2	11.8	9.49
平均						
合計	19,461,242	343,467	84.1	74.8	5.42	58.65

註表3-1) 本表は「コロンビアにおける『草の根・人間安全保障無償資金協力』」, 在コロンビア日本国大使館, 2007年, CD-ROM版に基づいている。  
 註表3-2) 住民移動は「住居移動全体に占める暴力的状況の理由とする割合(%)」を指す。  
 註表3-3) データは国家統計庁等の統計データを在ボゴタ日本国大使館が提供したものである。  
 註表3-4) コロンビア共和国全体の人口は約4500万人で国土面積は1184868km<sup>2</sup>なので人口密度は379.9人/km<sup>2</sup>



凡例: ★ボゴタ首都区, ●調査対象の小都市名

図 1. 地域図書館が建設された県と調査対象の小都市/集落

全保障無償資金協力」を通じてコロンビア共和国政府の「全国図書館整備計画」の一環として児童を対象とした図書館を全国に建設する事業の検討を行った<sup>註14)</sup>。この全国的な事業が本論で研究対象としている地域図書館の建設事業である<sup>註15)</sup>。コロンビアにおいて地方部の社会的安定の確保は重要課題で、国際協力事業が実施された背景には、大都市部と地方部がともに抱える課題を解決してゆこうとする社会的な目標があることが分かる。

次に、地域図書館の建設支援事業の事業費を記録した資料をまとめた。1999年～2010年の期間に116件の支援事業が実施された<sup>註16)</sup>。この内の1件は図書館バスの事業なので115件の地域図書館の建設事業が行なわれたことになる(表2, 3)。事業による受益者総数は約168万人で、総事業費を日本円換算で示すと約10.73億円となる。ここで、115件実施された地域図書館の建設事業<sup>註17)</sup>について1事業あたりの費用を算出すると約845

万円となり、1事業あたりの受益者数は約14,621人となる。受益者1人に対する支援額は約578円と計算でき、1事業あたりの受益戸数は、戸あたり5人と仮定すれば約2,924戸に対する支援事業といえる。

2-4. 地域図書館建設事業における受益者

日本政府の支援により地域図書館が建設された県(以下受益県とよぶ)は13県あり<sup>註19)</sup>、受益県の総人口は約1946万人、受益県の合計面積は34万km<sup>2</sup>となる<sup>註20)</sup>。この値から受益県ごとの人口密度(受益県人口密度)を計算し、受益県人口密度の平均値(受益県平均人口密度)を計算すると58.65(人/km<sup>2</sup>)となる。このことから10か年<sup>註21)</sup>でコロンビアの総人口の42%の人々が受益対象者となった。ここで受益県平均人口密度の58.65(人/km<sup>2</sup>)を用いて、1件の地域図書館の建設事業により、出現した受益地域の面積を年度ごとに計算して受益地域の面積の合計を算出すると28670(km<sup>2</sup>)となる<sup>註22)</sup>。

この値を事業総数で割ると受益地域面積の平均値は216.42 (km<sup>2</sup>)となる。そこで1件の地域図書館を中心にして受益地域圏の形態を円形と仮定して、受益地域面積の平均値から受益地域の仮想円の半径を算出すると8.18 (km)となる。これは1件の地域図書館を中心として徒歩で約2時間の距離に住む人々が受益者となる圏域を形成したといえる。

### 3. 標準型地域図書館の開発と建設過程

#### 3-1. 地域図書館の設計案の作成

全国に普及・展開していった地域図書館の建設事業では標準型地域図書館の設計案が用いられた。この設計案が作成される以前にコロンビア政府文部省は、標準型の地域文化センターの設計案を作成していた<sup>註23)</sup>。標準型の地域文化センターの設計案は文部省所属の建築家のアルベルト・サルダリアガ<sup>註24)</sup>が設計した。6m×6mの1つの建築ユニットを5～6ユニット組み合わせ、1つの施設を構成する設計案だった。

一方、文化省は地域図書館を建設する場合には、建設される場所に固有のデザインによる地域図書館の建設を想定していた。文化省は日本大使館と地域図書館の建設に関する交渉を始めたが、日本政府からの建設資金の支援額に限度があったので、文化省は文部省が作成していた標準型の地域文化センターの設計案を地域図書館の設計案に改良することにした<sup>註25)</sup>。

#### 3-2. 標準型地域図書館の設計案への改良

文化省のメストレは敷地の形状が敷地形状により異なると予測したので6m×6mのユニットを組み合わせ、構成する標準型の地域文化センターの設計案を高く評価していた。標準型の地域文化センターは図書を収蔵する閉架書庫だった。そこでメストレは、人々が本に直接触れる事ができるように、開架方式の採用について「国家図書館計画」の責任者と協議した結果、開架書庫を採用する事ができた。技術的視点からメストレは標準型の地域文化センターでは下屋が外側に上向きに跳ね出しているため排水など維持管理の観点から設計案の改良が必要と考え、柱の断面を太くして棟から屋根の両側に雨水が自然に流れ出るように下屋の形状を変更した。また標準型の地域文化セン

ターの設計案では壁面の上部に窓があり、内部の空気が外部に流れ出るため、寒冷地での対処が必要と考えた。そこで、気温が高い地域では壁面にアルミ製のスリットの扉や窓の開口部を多用し、寒冷地では壁面を多くとれるように壁面のデザインを調整できる設計案を作成した。さらに温度の高い地域では、開口部から入る空気が外部に流れ出るように棟の端部に排気口を設計した<sup>註26)</sup>。文部省が作成した標準型の地域文化センターの設計案は文化省により利用方法、建築構造、耐候性、環境の観点から改良された。

なお、地域図書館の建設において自治体は土地の調査結果を提出し、敷地を準備する必要がある。地域図書館には最低でも500m<sup>2</sup>の敷地の準備が求められた<sup>註27)</sup>。一件の地域図書館の面積は約180～216(m<sup>2</sup>)、利用者数は80名と設定され、その内訳を、子どもを25人、若者と成人を40人、インターネットサロンを15人で構成するとする基本案が作成された。一般閲覧室は必要に応じて60人が映画等を観る事が可能な空間として設定された。トイレ設備(障がい者用を含む)を設置する事や、耐震基準も備え、地震時には避難所として使用することが意図された<sup>註28)</sup>。(図2, 3)

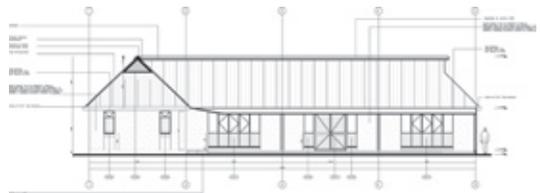


図2. 標準型地域図書館の立面図 (メストレ氏提供)

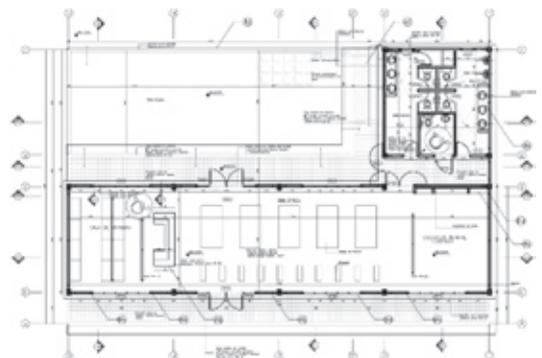


図3. 標準型地域図書館の平面図 (メストレ氏提供)

### 3-3. 地域図書館の建設プロセスの構築

標準型地域図書館の建設は3カ月で建設することが前提条件だった<sup>註28)</sup>。これは日本側の予算の運用方法によるとメストレは認識し、建設日程の編成を重要な課題と位置づけて、建設過程を編成した。現場での土地造成と床土間の仕上げに初期の20日間を充て、その後、構造体の設置、屋根工事と同時に壁面工事を行ない、上下水道工事と電気関係の工事を35日間で完了させる。最後に開口部と内装工事を35日間で実施する。合計90日の建設過程が編成された<sup>註29)</sup>。メストレは全国で同時に進む複数の現場で設計監理を行った<sup>註30)</sup>。

設計監理費用はコロンビア政府文化省が負担し、日本政府は建物と動産のための資金を支出した。工期短縮のために鉄骨の主要構造材はボゴタで製作した後、敷地に運搬して組み立てた<sup>註31)</sup>。壁面のブロックはボゴタにある工場に大量生産を依頼し現地生産品よりも価格を抑え、請負業者に対して指定材料の使用を指示した。ボゴタから山岳地帯を通して資材を運ぶために運送費用が資材費に反映されるので低価格のブロックを現場に持ち込むことが必要だった<sup>註32)</sup>。

セメントや砂利などの建設資材が現地調達できない地域もあった。水の確保が困難な地域では雨水を貯水して建設に使った。道路が通じていない場所では海路を使った資材運搬が行なわれた。海路を使うと荷物の上げ下ろし作業が必要となる。軍隊に作業への協力依頼を出すことは可能だったが、軍隊が地域で活動することを好まなかった地域では、地域の人々に荷揚げと荷下ろしの労務を依頼した。13の県で地域図書館の建設が工期、資材調達、コミュニティの状況を考慮して展開していった事が把握できる(写真1, 2)。



写真1. 施工中の地域図書館



写真2. 施工中の地域図書館

### 3-4. 地域社会と対応する建築職能者

地域図書館建設事業の実施過程で、メストレがどのように地域社会の状況を認識したのか、証言を得られたので以下にまとめた<sup>註33)</sup>。

紛争が続いていた地域では、二つの異なる対応があった。肯定的に地域図書館を受け入れた地域では、図書館建設は平和構築にとって大切な事業と理解されていた。こうした地域では親たちが図書館に関する質問をメストレに幾度も投げかけた。地域図書館の完成時刻には地域の人々は学校などから図書館を地域図書館に入れる作業を自発的に行うなど、地域住民が地域図書館を積極的に受け入れる行動がみられた。地域図書館の建設が拒否されていた地域では、図書館の意味が十分に理解されず、地域図書館は警察や軍隊の施設と見なされていた。メストレはコミュニティの性格として本を読むことが生活習慣にない文化であると理解して対応した。また、地形もコミュニティの対応に関連していた。傾斜地に住む人々は比較的相互に協力的な対応だったが、比較的、平らな土地ではコミュニティのまとまりは感じられなかった。傾斜地の人々は農業を通じて相互に助け合う事に慣れているとメストレは推測した。

メストレが建設過程で重視したことは、本や図書館がコミュニティに何をもたらせるのかを住民に説明する事だった。本や図書館を知らない人々に地域図書館の建設を説明する事は困難だった。建設過程でメストレは地域住民と必ずしも話し合いの場を持たなかった。住民との話し合いの場をもてば、住民の意見を取り入れる必要が生じ、対処に時間が必要となる。住民の意見は参考になるが、住民は事業の意図とは異なる要求を出す場合もあり、事業方針を変更する必要が生じる可能性も出ると想定された。自治体の首長の考えと対立する局面にも対応した。その一方でメストレは地域の気候の特徴を住民から聞いて地域図書館の設計変更を行った。こうした地域社会との交渉の経験からメストレは、「地域の文化を建築に取り入れる事を設計で先行させるよりも、建設過程で地域の文化をとり入れる方法をとる事の方が妥当であると理解した」。地域の状況に建築的観点から対応する設計方法が採用された事が把握できた。

## 4. 標準型地域図書館の運用状況

### 4-1. 調査対象の標準型地域図書館

コロンビアでは多様な環境、とりわけ場所と気候に非常に適する建築が生まれることに建築の特質がある<sup>註34)</sup>。実際、コロンビアの国土の地理的特徴は複雑で、場所により気候が大きく変化する<sup>註35)</sup>ので、気象条件を考慮した調査が必要となる。そこで、コロンビアの地域計画の専門家の助言を得て<sup>註36)</sup>、標高に従って調査対象となる小都市/集落の標高を、標高2500m以上の寒冷、標高1000m～2500mの中間、標高1000m以下の熱帯の地域に分けた。その上で標準型地域図書館が建設された人口規模が3000人を上回らない程度の小都市で首都のボゴタからの交通手段が整っていた以下の小都市/集落の地域図書館を抽出した。a) ククヌウバ(寒冷)、b) サンタ・ソフィア(中間)、c) コエッリヨ(熱帯)である(図1、表1参照<sup>註37)</sup>)。これらの3つの小都市で都市の景観、地域図書館のデザイン、地域図書館の利用者や運営に関わる人々に対して聞き取り調査を2011年11月4日～12日の期間に実施した<sup>註38)</sup>。

### 4-2. コエッリヨの標準型地域図書館

トリマ県[Tolima Department]のコエッリヨは、マグダレーナ川[Magdalena River]畔の小高い丘陵に位置する小都市である。コエッリヨの地域図書館の利用状況は自治体の教育事業に関与する部署の秘書であるポルテラ<sup>註39)</sup>から把握できた。コエッリヨには緑系統の漆喰仕上げの壁面からなる民家が多くある(写真3)。集落を構成する民家の屋根はスパニッシュ瓦やセメント瓦、ヤシの葉を葺くなど屋根素材は多様である。コエッリヨの人々は緑色が「新鮮さ」を示すので好んで使う。この事が根拠となり図書館に緑色が用いられた(写真4)。なお、自治体のシールドに用いられている色の意味を考察すれば、若緑色は農業生産の



写真3. コエッリヨの町並み  
(著者撮影)



写真4. コエッリヨの地域図書館  
(著者撮影)

豊かさを示す色であり(表4)、若緑色はこの小都市の人々が共有する価値観/共有する記憶<sup>註40)</sup>を示す色で、同時に修景のデザイン要素となっている。ポルテラはコエッリヨには「本を読まない」という文化があったので図書館の設置は困難だったが、自治体が学校施設とは異なる図書館の建設を希望していたところ、日本政府からの支援を自治体は得ることができた。地域には本を読まない文化があるので、自治体は、地域の児童や学生達が親しむ音楽を契機に図書への関心を高める方針をとった。コエッリヨの文化センターに10～18歳の学生が自治体の運行するバスで音楽の練習に週2回来る。音楽の指導者は音楽の練習を図書館での学習と関連づけたことで、学生らは図書館で学習する習慣を持つようになった。また自治体はコエッリヨの約8Km～10Kmの圏域に住む約8000人を対象に、中学や高等学校を卒業していなかった人々(婦人が多く、高齢者も含まれている)に対して授業を提供する。30人程度の授業が行われており、授業を受ける人々は地域を巡回するバスを利用して休日に地域図書館に来る。地域図書館を既存施設と連携させて運用することにより本を読む文化を育てることや、社会人学習の場所として地域図書館が活用されていることが把握できた。

### 4-3. ククヌウバの標準型地域図書館

ボヤカ県のククヌウバは人口約1000人の小都市で牧羊と高品質な毛織物の生産拠点で、毛織物の工芸家が組合を結成し高品質な製品を販売する(表1)<sup>註41)</sup>。ボゴタからは北へ約80Kmの位置にあり週末には観光地となる。ククヌウバの集落の町並みは白い壁体に深緑色の帯が回っている民家で構成されている(写真5)。窓や扉は深緑色で白色の壁面に組み込まれている。屋根はスパニッシュ瓦、壁面はアドベである<sup>註42)</sup>。ククヌウバの地域図書館のデザインは伝統的な民家と建築表現が類似している。壁面は深緑色の帯が廻り、屋根はスパニッシュ瓦に似せた赤茶色のまだら模様の色の鉄板を用いており周辺の建築物に「似せた」ことが明らかに示されている(写真6)。ククヌウバの自治体のシールドから色彩の意味を考察すると、黒や緑は大地の生産性を意味する事が分

かる。コミュニティが誇る産業の豊かさを表現する色が地域図書館に用いられている（表4）。

食堂で仕事の手伝いをしていた12歳の少年から地域図書館の利用状況を聞く事ができた。少年は家族と地域図書館にビデオの鑑賞に行き、ガルシア・マルケスの作品を読む。学校の授業後に殆ど毎日友達と地域図書館に通い、工作のプログラムへの参加を楽しみとしている。地域図書館の中庭にいた少年に利用状況を聞くと、この少年は約8km 離れているウパテ市に住み、ククスウバには母親がソーセージを販売しに来るときに一緒に来て、地域図書館を利用する。工作プログラムへの参加を楽しみにしている。ククスウバの地域図書館は警察署<sup>註43)</sup>に隣接し、当直の警官から地域図書館の利用状況を把握できた。警官達はククスウバの社会環境が安定しているので図書館運営に関わる時間があり、図書館で家庭内暴力、麻薬、産児制限などに関するワークショップを開催している。地域図書館はククスウバ近隣の10～12の小学校に対してビデオレクチャー、読書会などの教育プログラムを提供している。母子家庭の母親の利用も多く、子育て支援の場としても地域図書館が利用されている。地域図書館が地域産業や社会福祉と結びつく運用状況を把握できた（写真5、6）。



写真5. ククスウバの町並み (著者撮影) 写真6. ククスウバの地域図書館 (著者撮影)

#### 4-4. サンタソフィアの標準型地域図書館

サンタソフィアはボヤカ県にある自治体で、盆地に囲まれた丘陵にある。地域図書館の運用状況は司書のリヒヤ・サイデ・ガンボア・モラレスから聞くことができた<sup>註44)</sup>。

サンタソフィアの自治体は地域図書館の建設を1990年代より独自に始めた。これが現在の地域図書館の原点となっている。地域図書館の建設には山の敷地、役所の近隣の敷地、公園の一部の敷地

を使う3案があった。建築家は静かで公園が近い事を理由として公園の一部の敷地を選定した。建築設計に関して建築家と地域コミュニティとの協議はなかった。サンタソフィアには薄茶色の壁面にスパニッシュ瓦の民家が多くあり（写真7）、地域図書館のデザインは白い壁面に赤色の屋根で構成されている（写真8）。建物の色の意味を自治体のシールドに用いられている色の意図から考察すれば、サンタソフィアがもつ宗教的伝統が地域図書館の屋根の色に表現されていると理解できる（表4）。サンタソフィアの人口は約3000人で、その内700人が児童である。地域図書館では1日に約60人の利用があり、12歳から16歳の児童の利用が最も多く、バスで1時間の距離にある集落の住民も利用する。この地域図書館では地域の小学校の教員を対象に数学、英語、自然科学などを学習する支援も行う。教育省と情報省が共同で運営するインターネットを利用した学習プログラムがある。なかでも司書自身が発案した「創話学習」は特色がある。この学習方法は児童が読書する能力を高める訓練である。学習方法は一人が話を創作すると次の一人が前者の話の続きを創作する。



写真7. サンタソフィアの町並み (著者撮影) 写真8. サンタソフィアの地域図書館 (著者撮影)

表4. 図書館の外観の色彩と都市の紋章（シールド）

	壁面色と屋根の色彩	図書館と関係する色彩と紋章の色彩の関係	紋章（シールド）
ククスウバ	壁面：白+濃緑 屋根：スパニッシュ風塗装（写真6参照）	（制定年不詳）。緑と黒は自治体の伝統色で青は湿地を示す。黒は地下から産出する石炭がもたらす富を表現し、緑は土地の豊かさを示す（註15）。	
サンタソフィア	壁面：白 屋根：赤（写真8参照）	1999年制定。赤色は古い時代から存在してきた教会の背景色として宗教性のある伝統的な色であり、モノリスの背景としても使用されている（註16）。	
コエリヨ	壁面：白 屋根：緑（写真4参照）	2003年制定。緑色は暖かい地方での酪農やコーン等の農業生産品の背景色として、農業の風景を描く色として用いられている（註17）。	

そして次の児童へと話の創作を連続させる。35人程度の児童が参加して集団で物語を創り上げる。翌日に、前日の物語を参加者が思い出す学習プログラムである。地域図書館の完成後は読み書きできる人が増え、読書グループが形成された。近年は地域図書館では旅行者に対する旅行情報センターの役割も担い始めている。独創的な読書プログラムの開発、教育方法の開発、地域振興のために地域図書館が活用されていることが把握できた。

## 5. 小都市における地域図書館

地域図書館は小都市の住民と周辺地域の住民に利用されているが、1件の図書館の利用圏は概ね8Km～10Kmの半径の圏内となっており、計算結果と聞き取り調査の結果は一致する<sup>註45)</sup>。この圏域の住民のために自治体はバス等を使い圏域住民の図書館利用を促進している。利用の対象は児童を対象とすることから図書館の運営プログラムの開発や図書館の空間利用へと多様化し一般の人々の利用へと展開した結果、社会教育の場として、或は、人々の接触の場となった。こうした役割を地域図書館が担う背景には都市の空間の構成に理由があると考えられる。

コロンビアの都市は16世紀にスペインから来た人々が先住民の支配を始め、都市は砦あるいは入植地として建設された事に始まる。都市は先住民が多く住む地域、鉱山に近い場所、生産性の高い地域、川沿いの港に建設された。植民地の都市はチェス盤型で広場を中核とし、その周囲に教会等の施設、そして支配者の敷地が割り振られ、同心円状に階層化された配置が採用された<sup>註46)</sup>。統治に適した都市形態が採用されたが(コロンビアの歴史的都市は都市壁を持たない)、民主主義の展開に対応して都市の空間的な再編成が十分にすすんでいなかったといえる。ここで小都市の原型の領域を明確に示せないで、都市が拡張する過程において拡張した領域をも含んだ都市の領域を再定義することとなる。この背景に標準型図書館の建設は明らかに小都市に固有な土や煉瓦を用いた建築物群と区別でき、同時に一定の広がりをもつ広場に準じる公共空間を小都市に挿入した事業といえ、地域の歴史性に対して偽りの建築とはなっ

ていない。また、閲覧室の利用を限定しない運用で地域住民の必要性に柔軟に対応できる可能性を空間的に含有できたと理解できる。地域図書館の建設は植民地型の都市では不可能だった新しいタイプの共空間(コモンスペース)を小都市に創り出す事業となっていったといえる。

## 註釈

- 註1) United Nations Bureau of social Affairs(ed), 'Social progress through community development', United Nations. Bureau of Social Affairs, 1955
- 註2) 大野泉, 「世界銀行 開発援助戦略の変革」, NTT出版, p.31, 2000年
- 註3) 文化庁文化財部伝統文化課, 「文化財の国際協力の推進方策について—文化財国際協力等推進会議報告の概要—」, 平成16年8月 [http://www.bunka.go.jp/kokusaibunka/bunkazaihogo/pdf/bunkazai\\_kokusaikyoryoku\\_gaiyou.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokusaibunka/bunkazaihogo/pdf/bunkazai_kokusaikyoryoku_gaiyou.pdf) [2013年3月11日閲覧]
- 註4) 日本政府外務省, 「平成24年度国際協力重点方針」, [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/pdfs/24\\_jyuten.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/pdfs/24_jyuten.pdf) [2013年3月11日閲覧]
- 註5) ジェトロセンサー, 日本貿易振興機構, 2011年4月号, p.79, 2011年4月
- 註6) 在東京コロンビア大使のパトリキシア・カルデナス閣下の下記講演録による(あごら/あごら新宿(編), 「中近東、南米の女男平等は?」, BOC出版部, 325号, pp.14-17, 2010年10月)
- 註7) 「コロンビア—南米の輝く星」, 阪急コミュニケーションズ, Newsweek, 2010年7月28日, p.35
- 註8) 日本貿易振興機構, 「ジェトロセンサー」, 2011年4月号, p.31
- 註9) Centro de Investigación sobre Dinámica Social, Espacio y Población, el proceso de urbanización en Colombia (Bogotá:Universidad Externado de Colombia, 2007), p.14
- 註10) ハビエル・ペイナード [Javier Peinado], 「ボゴタの都市化と都市政策:境界領域を巡る論考」, 京都女子大学での講演記録(2010年10月8日)による。なお本講演のオリジナル論文は: 'Changes in Governance: Regulation and Urban Habitat in Bogotá', TU-Delft, 2004年10月
- 註11) M. Carmona in collaboration with R. Burgess and M.S. Badenhorst, 'Planning through projects: moving from master planning to strategic planning 30 cities', Techne Press, 2009
- 註12) (独) 国際協力機構農村開発部, 「コロンビア国内避難民など社会的弱者に対する栄養改善プロジェクト終了時評価報告書」, p.i, 2009年10月

- 註13) Ministerio de Cultura, Republica de Colombia, 'Aquí se puede leer: La cooperación japonesa y el Plan Nacional de Lectura y Biblioteca', 2005, p.24.
- 註14) 当初は児童図書館を建設することが想定されていたことが、註24に示す文献に記載されている。コロンビアでは、実質的に児童のみが利用者ではないと認識されているので、本論で現地の認識に準じて地域図書館と記述することとした。
- 註15) 日本政府は2000年度、2001年度には図書館建設の支援事業の実績がないので期間は10カ年度である。
- 註16) 1999年に行われた A タイプのグアナカスの建設支援事業は計算から除いている。
- 註17) コロンビアの行政区画に関しては、全国に32の県 [departamento] とボゴタ首都区に分かれている。
- 註18) 「コロンビアにおける『草の根・人間安全保障無償資金協力』」, 在コロンビア日本国大使館, 2007年, CD-ROM 版。
- 註19) 事業が行われた12年間のうち2000年と2001年は事業実績がない。
- 註20) この値は岩手県と福島県の面積の合計に相当する: 岩手県 (15278.77km<sup>2</sup>) + 秋田県 (11612.22km<sup>2</sup>) = 26890.99km<sup>2</sup>。
- 註21) 事業が行われた12年間のうち2000年と2001年は事業実績がない。
- 註22) この値は岩手県と福島県の面積の合計に相当する: 岩手県 (15278.77km<sup>2</sup>) + 秋田県 (11612.22km<sup>2</sup>) = 26890.99km<sup>2</sup>。
- 註23) 日本国大使館は医療施設や教育施設への協力を想定していたことが文献に示されている (LA BIBLIOTECA QUE SOÑÓ GUANACAS, El Tiempo, 2004.8.15)
- 註24) 建築家のサルダリアガはオリジナル・プロトタイプを設計したのみで実際の地域図書館の設計や建設には関与していないと、電話での聞き取り調査に答えた (2011年11月)
- 註25) 2011年11月の面会調査でメストレ氏が証言した内容に基づく。
- 註26) 「カリブ海地方の民家から学び地域文化センターのプロトタイプを改良して地域図書館のプロトタイプの開発をした」と2010年に面会調査でのメストレ氏が証言による。
- 註27) 文献によれば600m<sup>2</sup>という記述もある (Ministerio de Cultura, Republica de Colombia, op. cit. p.29)
- 註28) Ministerio de Cultura, Republica de Colombia, op. cit. p.31
- 註29) 資材調達面からみて敷地の条件が必ずしも適さない場合には4ヶ月の期間で建設する事になっていたという2011年11月の面会調査でメストレ氏が証言した内容に基づく。
- 註30) Ministerio de Cultura, Republica de Colombia, op. cit., p.32
- 註31) 3ヶ月で建設することは極めて困難な事であったが日本政府の予算の仕組みを理解していたので努力できたことメストレ氏は述べた (2011年11月の面会調査でメストレ氏が証言した内容に基づく)。
- 註32) メストレ氏の保管する記録写真から構造体への塗装は現場で行なわれた事が分かる (2011年の調査)。
- 註33) メストレ氏の保管する記録写真から全ての地域図書館で同じ品質のブロックが壁面に用いられているとはいえない。赤い砂を混ぜたブロックが使用されている例が写真資料にある。
- 註34) 2011年11月の面会調査でメストレ氏が証言した内容に基づく。
- 註35) カルロス・ニーニョ・ムルシア [Prof. Carlos Nino Murcia] (建築家、コロンビア国立大学特命教授) はコロンビアの建築の特質に関する下記の論文でこの点に言及している (Sociedad Colombiana de Arquitectos, 'Architecture in Colombia and the sense of place the past 25 years', Bogota, 2004, p.11 (気候の多様性始めの方))
- 註36) コロンビア市販されている旅行書 ('GiA de Rutas por Colombia 2004-2005', Puntos Suspensivos Editoriales, 2005) に掲載されている都市名, 標高, 気温に関するデータも参考とした。
- 註37) 選定にはボゴタのハベリアーナ大学のハビエル・ペイナード教授 [Prof. Javier Peinado] の情報提供と示唆に基づいている
- 註38) 気温や標高のデータは各自治体が発表しているデータ (註15-17) に基づいている。
- 註39) ククヌッパ (2011年11月6日)、コエリヨ (同年11月9日)、サンタソフィア (同年11月11日) に現地調査を行った。元文化省の建築家への聞き取り調査は11月4日に行った。なお各小都市に関する情報はHPによる。
- 註40) ボルテラ氏はこの小都市に生まれて現在も暮らしている心理学の学位を持つ専門家である。
- 註41) 現在でも緑色の漆喰の壁面の住宅が多くみられる。民家は窓枠、扉、壁面などに一部に緑色を使っている民家や建物の壁面全体が緑色の建物が多い。近年は青、赤など様々な色に塗り替えられていると、ボルテラ氏は述べる。
- 註42) コロンビア国立大学のアドリアナ・トリシキー [Prof. Allina Trisxi] 教授 (文化人類学および芸術学) の説明による (2011年11月)。
- 註43) ハベリアーナ大学のペイナード教授の説明による (2011年11月)。
- 註44) 以前は警察署の中に図書館があったという記述もみられる (Ministerio de Cultura, Republica de Colombia, op. cit., p.25)
- 註45) モラレス氏は図書館運営の実績により地域での著

名人となり他の自治体に図書館の運営や設立に関する助言を与える役割を担っている。

註46) 下記文献にも2時間の距離での利用が紹介されている (Ministerio de Cultura, Republica de Colombia, op. cit., p.109)。

#### 謝辞

本調査は在コロンビア日本国大使館、在東京コロンビア共和国大使館および、ハベリアーナ大学（ボゴタ）などの諸機関から支援を得て実施できた。また、本成果は科学研究費補助金 No. 12102-04-3-5304 により得られた。